

## 愛知県 2023年度からの 「公立高校入試制度改変」についての愛教労の見解（要約版）

2022年1月17日 愛知県教職員労働組合協議会

愛知県では、2023年度から公立高校の入試制度が大きく変更されます。現在の中学2年生以降の子どもたちに影響が及びます。中学校現場では、詳細について事前の周知がないまま決定のみが発表された感が強く、また教育課程に与える影響が非常に大きな変更であることから、県内の中学校では戸惑いと不安の声が高まっています。私たち愛教労は、1月17日に、この公立高等学校入試制度改変に対する中学校教育の観点に立った見解を発表しました。以下はその要旨です。

### 1 早期選抜[推薦選抜・特色選抜]の導入

2023年度からの制度改変では、学力検査を課さない早期選抜が復活します。そこには推薦に加えて「特色選抜」が新設され、受験方式をより複雑なものにしています。中学校長の推薦を必要とせず高校の示す要件を備えていれば受験資格が得られるとされていますが、高校の教育課程を履修するのに必要な

### ~~ 「イイ子」選びの復活 ~~

「特色」とは何なのか、説明を聞いても釈然としない仕組みです。学力検査なしの推薦選抜の復活で、中学校では再びかつてのような問題が起きるでしょう。そこに特色選抜も加わることで、中学3年生の進路選択は混迷し、教員の苦悩は増すでしょう。

### 2 すべての入試日程前倒し ~~ 中3の3学期が壊される ~~

今回の入試制度改変では、公立高校の受験日程が大きく前倒しされ、2月上旬に早期選抜[推薦・特色]、2月下旬に一般選抜が予定されています。これにより、私立高校・専修学校の入試日程も早まることになり、今のところ1月上旬に推薦選抜・特色選抜、1月下旬に一般選抜が行われる予定となっています。

現在中学校で議論されているのは、3年生1・2学期を総括した評定で私立・公立ともに受験するように変更せざるを得ないのではないかということです。

また、受験校決定の時期も前倒しせざるを得なくなります。早まった受験日程に合わせるためには、私立も公立も12月のうちに、1・2学期の評定をもとに決定せざるを得ません。

受験当事者である3年生の立場で考えると、年明けからの授業は受験の判定には無関係ということになります。受験日程の前倒しによって、本来、義務教育最後の締めくくりの授業の期間であるはずの中3の3学期が、いっそう形なく破壊される懸念があります。

### 3 学力検査方式の変更 ~~ 「深い学び」のゴールがマークシート? ~~

今回の制度改変では、A・Bグループの2校受験を希望する場合も、学力検査は1回のみとし、マークシート方式の検査が導入されることとなります。しかし、採点の公平性を保つためのマークシート方式導入は、従来より差がつきにくいものになると考えられます。

現在の中学校の教育課程は「主体的・対話的で深い学び」を追求するものと位置づけられています。中学3年間の授業の中で、一問一答のような知識偏重の学びではなく、読み・書き・

聞き合い話し合って学ぶよう工夫が重ねられています。

入学選抜学力検査は中学校の学習内容の定着を測るべきものであり、マークシート方式はその方向と矛盾します。



### 4 希望する全ての生徒の高校全入を! ~~ この入試制度で誰が幸せになるのか ~~

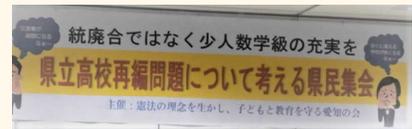
高等学校の教育は、特別な「特色ある生徒」のためのものではありません。希望する全ての生徒のために行われるべきものであり、その条件整備の責任は行政にあります。学力が高い、運動能力・芸術的能力に優れる、ユニークな視点を備える...という個性を持った生徒はもちろんのこと、全ての生徒が高校で学びそれぞれの能力・個性を伸ばす機会を得るべきです。

愛知県の計画進学率は、30年以上全国最下位と低迷してきました。1999年以前は89%台、2000年以降しばらくは93%、近年はやや下がって90~91%であり、全日制高校への進学希望があっても10人に1人はそれが叶わないように初めから

設定されているのです。愛知県教委は従来の計画進学率を「進学見込率」という指標に置き換えましたが、そこに生徒の全日制高校への進学希望を反映させ、その実現に向けた条件整備を進めることが行政の責務です。

私たち愛教労は、2023年度の高校入試制度改変によって、今後多くの中学生、保護者、教員が悩み苦しむことに危惧を表明します。入試制度は大多数の県民の利益になる方向で改善されるべきであり、今回の改変の問題点の修正を求めるものです。

# 統廃合ではなく少人数学級の充実を!



2月13日(日)、愛西市文化会館で、「憲法の理念を生かし、子どもと教育を守る愛知の会」主催の集会が開かれました。愛知県教委は昨年11月、「県立高等学校再編将来構想(案)」を突然発表し、県立高校の「統廃合」と「学科再編」を2023年度から2035年度にかけて断続的に進めようとしています。

その手始めとして、2023年度より

- 「稲沢・稲沢東・尾西高校」を稲沢高校に、「津島北・海翔高校」を津島北高校に「統廃合」する。
- 「学科再編」と称して、犬山南高校を「DX(デジタルトランスフォーメーション)人材」や「起業家マインド育成」を目的とした学校に、御津高校を全日制・昼間定時制を併設した「多様な生徒を受け入れるインクルーシブな学校」に「再編」する。
- 商業高校10校を「企業が求める人材育成」のために4タイプの学校に「再編」する。という計画を推し進めようとしています。

DX・・・おおむね「企業がテクノロジー(IT)を利用して事業の業績や対象範囲を根底から変化させる」というIT化といった意味合いで用いられる。(Wikipedia)

県教委は、近年県立高校の定員割れが続いており(今年度2600人超)、将来的に中学校卒業生数の減少が避けられないから、ということですが、統廃合の計画には問題点が多いです。

1. 地域や学校現場の意見が反映されてない。
2. 愛知県の教育予算は全国最低レベル。

3. 民間企業など外部委託を進める。

などです。

本集会では、これらのことが愛高教からの基調報告で語られ、その後、当該高校の卒業生や教員などから「構想」の様々な問題点が発言されました。

そして、愛知県が財政力(全国2位)に見合った教育予算を立て、施設設備の改善を図り、少人数学級を実現させれば統廃合しなくてすむ、ということが参加者全員で確認されました。

集会アピールでは「子どもたちの学びを保障するため、県立高校の有り方について、地域や学校現場の意見を反映させることや、地域の県立高校を存続させることを求め」ることも確認されました。

愛教労は、『愛知県 2023 年度からの「公立高校入試制度改変」についての愛教労の見解』を発表しました。愛知県の上記集会で呼びかけられた「高校統廃合反対」の署名活動とともに、「入試についての見解」も広く訴える活動を進めていきたいと考えております。

# —儲けを労働者と下請けに回せ—



毎年2月11日は、トヨタ総行動の日です。トヨタ総行動は、春闘にあたってトヨタ自動車グループ各社に大幅賃上げや下請け単価の引き上げなどを求めるための行動です。

今年も、7:30からのトヨタ本社前宣伝を皮切りに、三河豊田駅前宣伝、刈谷駅前宣伝、そして名古屋駅前トヨタ自動車名古屋オフィス前宣伝を150名を超える参加者でおこないました。

参加者は、「トヨタは儲けを労働者と下請けにまわせ」「内部留保今こそ使うとき」などの横断幕を掲げながら、チラシを配布しました。愛教労は4名の組合員が参加しました。

愛知春闘共闘の西尾美沙子議長は、「先進国の中で日本だけがこの20年、賃金が上がっていない。トヨタの利益や内部留保は労働者や下請けの人たちが必死で働いて生み出したものだ。全ての労働者に大幅賃上げを、下請け企業にも単価の引き上げを行なうべきだ」と訴えました。各団体の代表も次々に登壇し、道行く人に「一緒に行動していこう」、「頑張りに報いる賃上げを」、「トヨタを支える下請け企業の下請け単価を引き上げよう」と訴えました。

## 愛教労 順法闘争 春闘は「定時出退勤」で参加



春闘は、労働組合が要求書などを提出し、要求の実現を目指す、全国一斉の取り組みです。

私たち教職員の賃金は、生計費と民間の給与等を考慮

して定められています。民間の給与水準が引き上げられない限り、夏の人事院勧告、秋からの賃金引き上げは実現しません。民間をはじめとする様々な労働組合と共闘する理由はここにあります。愛知県人事委員会や県教育委員会とおこなう賃金・労働条件交渉を有利に進めるために、愛教労は愛知春闘共闘会議に参加する労働組合と連帯しています。愛教労は2月の幹事会で、

1. 要求書などを提出して「職場交渉で要求実現しよう!」
2. 3/9・10の統一行動日には、「定時出退勤 順法闘争中」グッズを机の上に置き実施しよう。

の2点を確認しています。

